# 理事長就任のご挨拶



このたび、日本IVR学会理事長を拝命いたしました。

歴代理事長をはじめ、これまで学会を支えてこられた役員、委員、そして会員の皆様のご尽力に敬意を表するとともに、
深く感謝申し上げます。
先人の皆様が築いてこられた学会の歴史と伝統を受け継ぎ、次の世代へつないでいく重責を担うことに、身の引き締まる思いです。

IVRは、低侵襲治療として適応を広げ、患者さんの負担を軽減しながら高い治療効果をもたらす医療として発展してきました。
一方で、その価値が社会に十分認知され、必要とするすべての患者さんが適切にIVRへアクセスできる環境は、いまだ十分とは言えません。また、人材育成や診療基盤の充実、エビデンスの創出など、私たちには引き続き取り組むべき課題があります。

こうした現状を踏まえ、日本IVR学会は2026～2028年度のビジョンとして、「IVRを、もっと身近に。（Make IVR Essential）」を掲げました。
「身近」とは、患者さんだけを意味する言葉ではありません。必要とする患者さんが適切にIVRへアクセスできること、医療者にとってIVRが身近で信頼できる選択肢となること、IVRに携わる一人ひとりが誇りとやりがいを持って活躍できること。そのような未来を目指し、学術・教育活動の充実、専門医制度の定着、診療基盤の強化、エビデンスの創出、国際連携などに取り組んでまいります。

今後とも、日本IVR学会への変わらぬご支援とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2026年8月
日本IVR学会
理事長　曽根 美雪